

特集

2019 年秋季近畿支部会報告

小島 敦（東海大学）、山道千賀子（武庫川女子大学）

1. はじめに

去る 2019 年 11 月 24 日（日）、大阪市立科学館にて近畿支部会が開催された。概要を報告する。

日時：11 月 24 日（日）13:15～17:00

会場：大阪市立科学館 地下 1 階研修室

テーマ：若いからできる社会とつながる天文活動

発表：12 件(招待講演 2 件含む)

参加者：61 名(リモート参加含む)

2. プログラム

13:15～13:20 開会の挨拶

13:20～13:45 うららん（伊藤うらら）

「天文の価値の伝え方」

13:45～14:10 内藤武

「ぼくのかんがえたさいきょうのてんもんふきゅう」

14:10～14:30 ポスター発表/休憩

諏原佑香「宇宙広報団体 TELSTER の活動紹介」

吉村彩「星空案内イベント「飛鳥の宙」2ndINSTANT PHOTO」)

14:30～14:45 玉澤春史

「天文教育普及の若手アクティビティをどのようににはかるべきか」

14:45～15:00 加藤賢一

「ケプラーの気分になって ～ティコのデータを前に～」

15:00～15:15 西村一洋

「星座早見の地平線の軌跡 -教材としての活用-」

15:15～15:30 嶋田理博

「ペーパークラフト展開図作成アプリによる惑星儀、天球儀の製作」

15:50～16:05 廣瀬匠（リモート発表：スイスより）

「リアル銀河鉄道の夜-電車を使った星空案内の報告」

16:05～16:20 伊藤心

「大学生活における地域での天文教育普及活動」

16:20～16:35 武中里穂

「アボリジニの神話と天文学」

16:35～16:50 小島敦

「カタステリスモイにおけるおうし座に関する考察」

16:50～17:00 閉会の挨拶

3. 開催にあたって

今回の近畿支部会では若手が企画し、運営を行った。8 月の夏の年会に参加した近畿支部の大学生や新社会人が支部会を企画してみてもどうかという話が事の発端である。当日の開催までの準備内容などを報告する。

3.1 企画の準備

企画準備は 9 月の初頭から始めた。支部会を企画するにあたり、話し合いは全て LINE を用いた。週に 1 度 1～2 時間程度の電話会議を行い、その他はトーク画面のチャットでやり取りを行った。LINE のメンバーには若

手と成田さん、中道さん、松岡さんに入っていたが、必要に応じてメールでやり取りを行った。電話会議のアジェンダや議事録は LINE ノートや Google ドライブにて共有を行った。その他、企画書など文章の推敲には Google ドキュメントを用い、オンライン上でリアルタイムに編集作業ができるよう環境を整えた。また、電話会議の日程調整には調整さんを用いた。

3.2 日程と場所の選定

まず支部会を開催するにあたり、時間と場所を確定しなければならない。場所は若手が集まりそうなところ、特に馴染みのない会議室では入りづらいのではないかと懸念から、大阪市立科学館が候補として挙がった。一度電話会議を挟んだあとの 9 月 10 日に、大阪市立科学館の渡部学芸員に場所と時間の相談をし、タイミングよく空いていた 11 月 24 日(日)の午後に研修室をお借りして開催することになった。

3.3 テーマの設定

今回は私たちの若い世代が主体となったので、研究会を若い方々にも身近なものと感じてもらい、支部会に来てもらうことで次期年會に繋げることを狙うため、「若い」に重点を置くテーマを考えた。

現在、学生同士の交流の場は、関西圏では KSSN[1]、全国規模であれば冬の陣[2]などが存在している。これらの集会で交流や勉強会といった事柄は充足しているため、支部会はこれらと中身の差を付けたかった。そのため、学生だけでなく中堅やベテランの方がいらっしゃる場でできることといえば、若手の活動を後押ししてもらうことではないかと考えた。若手側は普及活動の紹介、中堅・ベテランは学生が活躍できるようなボランティアの窓口やキャリアの紹介をいただければと考えた。

3.4 広 報

支部会の告知は日時と会場が確定した時点(10 月 15 日前後)で代議員の方が天教 ML に第 0 報を流してくださった[3]。この時には会場が決まっていたが、館内での手続きが終わっていないため、会場は大阪市内とされていた。後に、科学館側より公表の許可が出たため、若手で文面を作成し 10 月 23 日に会場案内も含めた第 1 報を流した。その後は、アップデートを重ねながら第 3 報まで流した。天教 ML だけでは広報しきれないところもあるため、代議員の方にご協力いただき、日本天文学会等で ML の転送をお願いした。また、今回のターゲットは若手であったことから近畿支部会の Twitter アカウントを開設した。各団体や著名な方に協力いただき、支部会の告知をリツイートいただき拡散をした。



図 1 今回開設した Twitter アカウント

4. 当日の様子

若手が開催するはじめての支部会ということもあり、かなり不安に煽られていたが、Twitter や広報の結果なのか、会場選びがよかったのか、近畿支部会としては過去最多の合計 61 名[4]の参加があった。事前に参加申し込みがあった 45 名[5]以外にも、当日参加が 15 名程度あったようだ。

また、当日にはリモート通信が上手くいかないなどと多少のトラブルはあったものの、会自体が進行できなくなるような大きなトラブルもなく、なんとか最後までやり遂げることができた。

会終了後にも、来場者が各自で話を続けるような、非常に和やかな雰囲気に終始包まれていた。



図 2 開会の挨拶



図 3 廣瀬氏のリモート発表の様子

5. アンケート結果

今回の支部会では参加申し込みの際に Google フォームでアンケートを取った。飛び入り参加の方には当日アンケート用紙に記入いただいた。

設問は以下の通りである。

(1) 年齢層を教えてください。

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代
- ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代
- ⑨回答しない

(2) 天文活動に関わっている年数を教えてください。(仕事・趣味等問わず)

- ①活動を行ったことがない。
- ②1年未満
- ③1年以上 5年未満
- ④5年以上 10年未満
- ⑤10年以上 20年未満
- ⑥20年以上 30年未満
- ⑦30年以上 40年未満
- ⑧40年以上
- ⑨回答しない

(3) ご自身が当てはまると思う層を教えてください。

- ①若手 ②中堅 ③ベテラン
- ④その他(自由記述)

結果は以下の通りである。

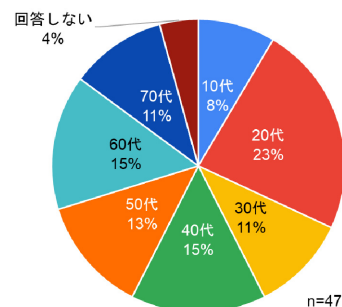


図 4 年齢層

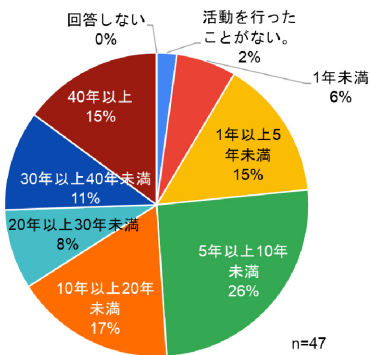


図5 活動年数

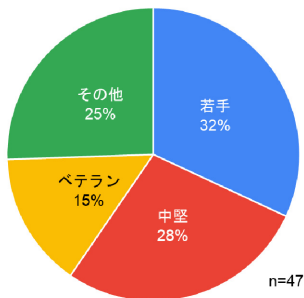


図6 当てはまると思う層

設問(3)での「その他」の回答には「若手と中堅の中間」、「年齢や経験年数からはベテランかと思うが、中身が伴っていない」といった回答があった。

今回のアンケート結果より、「若手」と回答している人の活動年数の回答は「1年未満」、「1年以上5年未満」、「5年以上10年未満」であった。若手、中堅、ベテランと何をもって定義するのかは曖昧であり、活動内容や知識の有無等に左右されるが、意識としては10年未満までが若手と認識している人が多いと考えられる。

6. さいごに

今回は、若手を中心となって企画・運営する新しい試みだったが、近畿支部会としては過去最高の61名もの参加があり、結果とし

ては無事に成功を収めることができた。

もちろん、このまま「若手企画グループの皆さんや代議員の方々」と力を合わせて頑張りました。」と終えるのもいいと思うが、ここでは今後同じようなことをして頑張る方々のためにも、今回企画運営を進めていく中で成功したことや、逆に失敗したことを報告し、今後につなげようと思う。

6.1 成功したこと

さて、「成功したことや失敗したことを報告」と書いたが、実は今回の企画運営では正直に言って成功したことはほとんどない。強いて成功したことと言えるのは、若手企画グループで運営をしたTwitterアカウントでの情報発信だと思う。天教の方々や各団体・企業様に拡散のお願いをして、天教に関わりのない方にも届くようにとTwitterで情報発信を行った。また、招待講演や一般発表の要旨もTwitterで公開したことで、比較的多くの反響があった。これらにより、普段は会員内でのMLでの発信で留まりがちな情報を、会員ではない方々へ届けることが出来たと思っている。

6.2 失敗したこと

成功したことが少ない反面、失敗したことは数多くある。先に紹介したテーマ決定もその1つだ。企画段階では、若手の持つスキルなどを天文教育に活かすディスカッションなども考えていたため、このようなテーマしたが、支部会が終わってから振り返ると「もう少し議論の余地があったのではないかな。」と思っている。

その他に失敗したこととしては、

- ・若手と代議員の方々の間での連絡不足が目立った。
- ・支部会開催までのやることが、若手に対し不透明だった。

・一部の若手に仕事が集中した。

などが挙げられる。特に、上2つは大きく運営に影響した失敗であった。

連絡不足に関しては、LINE とメールの世代による使い方や使用頻度の違いなどの差が顕著に出た。今回、若手の企画グループでは話し合いを行うために LINE グループを作成して、電話会議を中心に進めた。そこには一部の代議員の方々も入っていたので、見てくれているだろうと私たちが連絡義務を怠っていたことがこの失敗の主な原因である。こうして振り返ってみると、会議ごとの議事録を含め、決めたことはメールで報告するべきだったと思う。

また、「開催までのやることが不透明だった」というのは、どこまで私たちがやればいいのか、また支部会開催にはどんなことが必要かという共通認識が若手と代議員の方々でなかった。そのために、ゴールやコースの见えないマラソンをしている感覚に近いものがあつた。

以上2点の連絡不足も、やることの不透明さも、実際に動く前に代議員の方々と私たち若手でお会いするなどして、事前に連絡手段やなにをやればいいのか、今回の目標といったことなどを相談し、共通の認識を持っていたら回避できたのではないのかと思っている。

最後の「一部の若手に仕事が集中した」というのは、どうしたら解決できたのかは今も分からない。事前に仕事が集中しないようにと5~6人の企画チームを組んで始めた。しかし、結果的には企画メンバーがほぼ同じ量の仕事を行うということはなかった。正直、これはかなり大きな負担だったと思う。今後、同じような動きがある場合には、この点を解消できないと中心となる人頼りになってしまい、若い方が継続して天教の運営に携わるといふには繋がりにくいと思う。

6.3 所感など

企画チーム発足の9月から11月までの僅か2か月の間でしたが、かなりの失敗と様々な経験をした。上記のこと以外にも、科学館に提出する資料が普通確認できない時間に送られていたり、電話会議に企画メンバーの参加が乏しかったり、若手メンバーが最もやりたかったテーマに即した企画内容が流れてしまったりと、率直に言ってかなり大変だったが、当日には非常にたくさんの方々にお越しいただき、なんとか終えることができたのは大変うれしく思う。今回の支部会が、若手を増やそうとする本会にプラスになれば幸いである。

7. 謝 辞

本会開催にあたって、企画段階では大阪市立科学館の渡部義弥学芸員に、当日は嘉数次人学芸員、石坂千春学芸員の各氏に多大なご協力を頂いた。

その他、近畿支部会代議員をはじめ、一般普及分野代議員の松岡さんや本会開催にあたりご協力いただいた全ての皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げる。

8. 企画メンバーのコメント

・福富和沙（武庫川女子大学）

微力ではありましたが、今回の企画に少しでも参加できたこと、有り難く思います。短期間ではありましたが、学ぶ事の方が多く、当日は色々な方との繋がりも増え、自分にとって良い経験をさせていただきました。若手企画メンバーを始め、当日来ていただきました皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

・阪本麻裕（京都産業大学）

イベントの企画経験はあったものの、実際に施設をお借りして外部とのやり取りをする大変さを一番痛感しました。若手で企画する

のは初めてということもあり、慣れないことがありましたが貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

・三田村耕平（大阪大学）

開催に当たり、非凡なる忍耐を発揮され当日を迎えられた企画メンバーの皆さま、本当にお疲れ様でした。また、ご多忙の所、多大なるご助力を頂きました近畿支部代議員の方々には深く感謝いたします。参加者を含め、関わられた全ての皆さま、本当にありがとうございました。



小島 敦



山道 千賀子

注 釈

- [1] 関西学生星のネットワークの略称。関西圏の大学が加盟し、勉強会や交流会を年に数回行っている。
- [2] KSSN の全国版。例年年末一度行われる。
- [3] 第 0 報は若手メンバーには知らされていなかった。
- [4] 途中参加、途中退室も含む。
- [5] 私たち企画メンバーや、代議員の方々などの運営メンバーも含む。



図 7 当日の集合写真